

イラン・中東緊迫

一部物流資材に在庫危機、高騰・出荷停止

■ストレッチフィルム入手困難で議連要望

中東情勢の緊迫によるナフサの調達難の影響が一部の物流資材に波及している。ポリエチレン製の「ストレッチフィルム」、ポリプロピレン(PP)を原料とする「PPバンド」や「PPテープ」、ユニット・ロード・デバイス(ULD)を覆うビニールシートなどの在庫不足や価格高騰が物流業界の各所で指摘され、メーカーや卸業者の新規受注・出荷停止が相次いでいる。パレット梱包などに欠かせないストレッチフィルムは、既に3割以上値上がりしているようだ。「コロナ禍にもなかった“在庫危機”だ」(物流会社関係者)。日本倉庫協会(日倉協)は会員企業へのアンケート調査を踏まえ、ストレッチフィルムが入手困難として5月、自民党の物流倉庫振興推進議員連盟に要望を提出することを決めた。

パレットに積載する箱の荷崩れを防止し、汚れを防ぐために使われる物流・工業用途のストレッチフィルムは、ポリ袋などにも使われるLLDPE(直鎖状低密度ポリエチレン)などのポリエチレン製が主流だ。PP樹脂を成形したPPバンドやPPテープは、梱包や荷造りなどの結束・固定作業に広く使用されている。PPバンドはパレット梱包にも必要だ。水濡れを防ぐために、ULDにはビニールシートがかぶせられる。

中東情勢の悪化以降、ナフサの調達難が広がるにつれて、いずれの資材も不足するようになった。各資材のメーカーや卸業者は3月以降、直近実績や通常数量以上の出荷制限、新規受注の見送り、30%以上の値上げを相次いで発表している。

ある物流会社の倉庫担当者は「あらゆる資材で在庫確保を図っているが、(既存ルートでは)新規のストレッチフィルムの発注ができなくなった。従来とは違う筋から調達できたものの、3割ぐらいは値上がりしている。ULD用のビニールシートを多めに発注しようとしても、いつも以上の量は受けられないと返答があった」と明かす。別の物流関連企業の関係者も「当社で取り扱っている包装資材関係はまともに影響を受けており、ストレッチ

フィルム、PPテープ、PPバンドなどは在庫不足の状況で、出荷停止の案件も出始めている。この状況が長引けば、出荷停止の対象がさらに拡大することも懸念される」とする。

物流会社ごとに自社の保有状況の違いはあれども、これほどの物流資材の“在庫危機”は「コロナ禍も、覚えていた限り以前も、一度もなかった。物流事業者だけでなく、荷主からも端々で困っていると聞く」(同)との声がある。

日倉協が5月に要望予定

日倉協は3月、会員企業全社を対象に「中東情勢の悪化による影響」に関するアンケート調査を行った。「回答のあった企業の7割程度が影響があるとした。トラックの軽油などとともに、ストレッチフィルムが不足しているとの声があった」(同協会担当者)。ストレッチフィルムの入手が困難となっている状況が報告されたとして、日倉協は5月、自民党物流倉庫振興推進議員連盟に現状を伝える要望を提出する予定だ。「特定の物流資材に対する要望は初めて」(同)という。

帝国データバンクのまとめによると、ナフサ由来の川上・川中製品(基礎化学製品)を製造する主要石油化学メーカー52社から二次流通まで

に直接・間接的に仕入れる製造企業は全国に約4万7000社あり、製造業全体の3割に上った。「ナフサ依存度」が最も高い業種は化学工業・石油・石炭製品で、プラスチック、合成繊維・染料、医薬品、化粧品、農薬、ゼラチン・接着剤、洗剤や自動車用塗料などに使われる界面活性剤などが中心だ。次ぐのが、ゴム製品、塗工紙・包装紙など。

ある中小の建設関連企業の関係者は「防水用の溶剤が手に入らず、注文しても届かない。仕事はあっても施工ができなくなっている。このままでは経営が成り立たない」と悲壮な声を上げる。ナフサの調達難は、最終製品としては建材や住宅用設備に端を発し、塗料・シンナーなどにも在庫不足を発生させ、物流資材まで広がってきた。小売り業関係者は「接着剤、養生テープやセロテープも値上がりしていて、5月から5倍になるものまである」と話しており、高騰の波は今後、各種の包装容器などへとさらに広がりそうだ。

帝国データバンクは「供給制限や高値が続けば、中小製造業の経営を圧迫し、製品価格を通じて生活にも影響が及ぶ恐れがある」と警鐘を鳴らしている。